

## 「日本版」の研究を探究活動の一部に

**スコアに表れた大学の特色を探究させたい**

前年度はT H E世界大学ランキング日本版(以下、日本版)のポスターを廊下に貼って、大学選びの参考にさせていました。今後は進路指導の中にも徐々に取り入れていきたいと考えています。ただし、「ランキング上位の大学」よい大学」として勧めるような短絡的な指導ではなく、気になる大学の分野別スコアに着目させ、「なぜこのような数値になっているのか」「数値の裏にはどんな取り組みがあるのか」などを生徒自身に調べさせる指導を想定しています。ランキングをきっかけとして、自らのキャリアを探究することが重要



校長 香山真一

**岡山県立和気閑谷高校**

進路実績(普通科) ● 過去3年間の4年制大学進学率は約4割(国公立大学1.5%、私立大学35.7%)。私立大学の主な合格実績は、川崎医療福祉大、岡山商科大、岡山理科大、環太平洋大、就業大など。

## 「日本版」を活用し、多面的に大学を研究

### 北海道 札幌南高校

進路実績●2017年度合格実績は、国公立大学214人(北海道大、東北大、東京工業大、東京大、横大、京大、大阪大など)、私立大学の主な合格実績は、慶應義塾大、早稲田大など。



進路部長 高桑知哉  
進路部 安保哲男

### ランキングの結果を「進路だより」で紹介

本校では、進路選択に役立つ情報を生徒に提供するために、「進路だより」を作成しています。前年度は、「大学研究」をテーマに全10号を配布しました。その中で、T H E世界大学ランキング日本版(以下、日本版)の結果も紹介し、大学選びの観点を生徒に伝えていきます。また、1年次に行う進路学習の時間でも、気になる大学の受験科目を調べるだけでなく、日本版のサイトで、その大学の順位や

スコアを確認するよう促しています。

そのようなことを始めた理由は、入試難易度以外の観点も含めて進学先を検討してほしいと考えているからです。大学選びの基準が入試難易度だけでなく、いわゆる「偏差値が高い大学」だけに目が向きがちです。特に低学年次に偏差値だけで志望大を決めると、そこから視野が広がらなくなってしまう。しかし、偏差値が高い大学「自分学びたい学問を学ぶのにベストな大学」とは限りません。自分がやりたいことを実現できる進学先を見つけるためには、さまざまな角度から大学を調べることがあります。その中でも、4つの分野で大学を比較・検討できる日本版は有効だと判断しました。



2017年度の「進路だより」では東京大学、東北大学などを紹介。日本版の総合順位だけでなく、分野別の順位スコアを交えながら、大学の強みを分析した。

### 日本版の登場は生徒の大学選びにも影響

教育力を重視している点も、日本版を活用する理由の一つです。就職等に着眼したランキングはこれまでもありましたが、それよりも各大学の教育力の分析のほうに、生徒や保護者にアドバイスする際には説得力があります。また、スコアを算出するための項目もバランスがよいと感じています。そうした新しいランキングの登場は、生徒にもインパクトがあったように思います。正確にその影



# 進路指導の現場で

# 起きているNew Trend

だと考えるからです。活用のタイミングは1、2年次の大学調べの時期になるでしょう。オープンキャンパス参加時に活用するのもおもしろいと思っています。参加前にスコアを調べて、そのスコアになった理由について仮説を立て、オープンキャンパスをフィールドワークと見立てて、施設を見学したり、教員や在学生に質問したりする。そのプロセス自体が探究活動となり、教育効果があると思っています。

### ランキングが大学教育の質を高めることに期待

日本版については、分野別のランキングを確認することで、これまでの偏差値ランキングでは埋もれていた大学の魅力が見えてくる点を評価しています。特に高校の評判調査から算出された「教育充実度」は多くの高校教員が目指しています。また、大学から見ても「教育充実度」は改善の取り組みがいくつかある指標でしょう。その際にポイントとなるのは、「いかに学生主体の教育を行うか」ではな

いでしょうか。大学で成長を実感できた学生は、その感想を母校の高校に伝える傾向があります。結果的に彼らの意見が高校教員の評判に反映されていくのです。そのように、これまでになかった指標がランキングに設定されることで、大学教育の中身が変わって

ていくのではないかと考えます。さらに、大学教育の質が変化すれば、それを測るための新たな指標が登場する可能性も出てくるでしょう。ランキングと大学教育が相互に影響し合い、互いの質を高め合うような関係になることを期待しています。

## AP研究から考える高校生活と将来

### 福岡県立筑紫高校

進路実績●2017年度の合格実績は、国公立大学135人(福岡教育大、佐賀大、長崎大など)、私立大学の主な合格実績は、福岡大、西南学院大など。

近年の高校の進路指導は「早期から」「より深く」大学調べをさせるようになっている。福岡県立筑紫高校では、入学直後の4月から、大学のアドミッション・ポリシー(AP)の研究をさせている。指定された3大学(東京大、大阪大、愛媛大)のAPを熟読し、「APが描く人物像」「大学がこのAPを定めた理由」などのワークに取り組む。大学がどのような人材を求めているのかを知ることで、今後の高校生活を考える第一歩にしてもらうことが目的だ。また、1年次の7月には、近隣の立命館アジア太平洋大学(APU)での研修を設け、「何のために学ぶのか」「将来、社会のために何ができるのか」を生徒が考えるきっかけにしているという。大学を多面的に調べさせることを通じて、自らの将来を考えさせる教育の好例と言える。



\*前回総合ランキング17位

取材・文 / 本間学 撮影 / 高橋龍次(札幌南高校)、富岡誠(和気閑谷高校)